

『てんぷら』の生まれ故郷は？ (外来語) 活動展開例

[ねらい]

コミュニケーション活動	外来語の由来について興味をもち、「シュークリーム」や「ギブス」などの言葉がどの国から入ってきたのか質問したり答えたりしようとする。
言語・文化の理解	我が国で使われているたくさんの外来語の由来から、我が国は世界中の国々と交わりながら互いに文化面で影響を与え合って生活してきたことを理解する。

[主な言語材料]

・ Where are (シュークリーム) from? From (フランス).

[準備]

教師	ワークシート (世界地図)、外来語カード (提示用、配付用)
児童	筆記用具

[展開]

時間	活動内容 ねらい	留意点	教師の動き	予想される児童の反応
↑	1 英語であいさつをする。 明るい雰囲気を作る。		1 元気よくあいさつをする。 Hello, everyone. How are you? Hello. I'm fine. (good, OK, so so, tired, hungry.....) (Oh, hungry. Me too. I want to eat sushi, udon, tempura, soba.....) (I like Japanese food. How about you?) (What Japanese food do you like?) (すし。まぐろ。そば・・・)	
	2 外来語の意味を理解する。 外来語に興味をもたせ、本時への意欲を高める。	次のクイズにつなげるため、実態に応じて英語で話題を広げるとよい。	2 外来語の意味を説明する。 * 導入として外来語を当てるクイズを出す。(板書する。) すし すきやき てんぷら そば やきとり 代表的な日本の食べ物です。うまそうでしょ。 全部、日本の言葉だと思いかもしれませんが、外国から入ってきた言葉が1つあります。どれでしょうか？ すし。てんぷら。そば・・・ 正解は、「てんぷら」です。代表的な日本の料理なのですが、「てんぷら」という言葉は、外国から入ってきたのです。 ポルトガル語で調理を意味する「テムペロ」から来ているという説が有力です。 * 外来語の意味を説明する。 てんぷらだけでなく、外国から日本に入ってきた言葉は、身の回りにたくさんあります。例えば、教室にある「チョーク」「ペン」「カレンダー」などです。このように外国から日本に入ってきた言葉を「外来語」と言います。	
10分		和製英語については、外来語との識別が難しいので、ここでは扱わない。		



- 3 外来語を探す。
外来語がいかにかくさんあるかを理解させる。

児童から和製英語も出されると考えられるが、識別が難しいので、ここでは分けない。

- 4 どの国から来た言葉か考えて答える。
いろいろな国由来の言葉があることに気付かせる。



クイズに慣れさせるため、ポルトガル語とオランダ語由来の言葉で練習する。
ポルトガル、オランダの2カ国については、ワークシートに解答が記入済みである。(書き方の例として)



児童に配るときには、「Here you are.」を使って配るとよい。
受け取った児童には、「Thank you.」を言わせるようにする。

「医学」「美術」「音

しかし、大昔に中国から来た言葉や、古くから日本語として溶け込んだ語は外来語とは言わず、主にヨーロッパやアメリカから入ってきた語を外来語と呼んでいます。ふつうカタカナで書かれるので、「カタカナ語」なんて言うこともあります。

- 3 身の回りの外来語を見つけさせる。

思い浮かぶ外来語はありますか？
(Let's look for GAIRAIGO.) 実態によっては英語で指示する。

テレビ。ラジオ。ケーキ。スプーン・・・・・・・・

たくさんありますね。身の回り、外来語だらけでしょう。

- 4 どの国から来た言葉か当てるクイズを出題する。

クイズです。
「チョーク、ペン、カレンダー」などは英語から、つまりアメリカやイギリスから入ってきた外来語です。
では、次の外来語はどこから来たのでしょうか？
「パン、ボタン、カルタ」…ヨーロッパにある国です。

* 「パン、ボタン、カルタ」の外来語カードを見せる。

フランス。ドイツ。イギリス。イタリア・・・ポルトガル

ポルトガル、正解です。ポルトガルと日本は、早くから交わりをもった国の一つなんです。だから、たくさんの言葉が入ってきました。「パン」は英語だと思った人もいますよね。英語では「bread」と言います。
パンは、ポルトガル語の「パウン」から来た、最も古い外来語の一つです。

次のクイズです。「ガラス、オルゴール、ランドセル」…やはり、ヨーロッパの国です。

* 外来語カードを見せる。

フランス。ドイツ。イギリス・・・オランダ

オランダ、正解です。日本は江戸時代に、オランダから科学や技術について、たくさんのことを教えてもらいました。だから、科学や技術に関する言葉が多く入ってきたのです。
「ランドセル」は、オランダ語で「ランセル」と発音され、それが日本ではなまって「ランドセル」と言われるようになりました。

では、続きはワークシートに書き込みましょう。
ワークシートを配ります。

* ワークシートを配る。(続きのクイズの答えは、ワークシートに記入させる。)

「楽」等のヒントを参考に
考にして考えさせる。

活動に使える時間
や児童数、学習経験
等の実態に応じて、10
～ 15 問程度出題する。



5 コミュニケーション活動で使う英語の練習をする。

英語での言い方に慣
れさせ、自信をもたせ
る。

児童が自信をもっ
て楽しく活動できる
よう十分に練習する。
発展的な活動とし
て、より自然な会話
にするために

「Excuse me.」

「Thank you.」

などの言葉を付け足
すこともできる。

国名については、
難易度を考慮し、カ
タカナ表記と同じ発
音でよいこととする。

アラビア語は、数
カ国で使用されてい
るが、答え方は「ア
ラビア」とする。

英語由来の言葉は、
ここでは扱わない。

どこの国の言葉が予想して書き込んでみましょう。書き方の
例は、ポルトガルとオランダのところを見てください。

ヒントはワークシートに書いてあります。このヒントがとても重
要だから、よく読んでみてくださいね。

* 外来語カードを見せながら 1 問ずつ出題する。

Where are “シュークリーム” from?
From “ドイツ”? From “イタリア”? From “フランス”?

* 「シュークリーム」という言葉を、ワークシートの国名の
ある枠に記入させる。

OK? 書きましたか? では、次です。
Where are “アレルギー” from?

* 同様に残りのクイズを続ける。

5 コミュニケーション活動の説明をし、英語の練習をさせ る。

この後の活動で、友だち同士、答えを教え合います。ただし、
聞いたり答えたりする言葉は「英語」です。答えは、このカード
の裏に書いてあるので、友だちには見せないでくださいね。
それでは、一人一枚ずつカードを配ります。

* 「シュークリーム」や「アレルギー」などのカードを配る。
(児童数と出題数のバランスによっては、同じカードが何枚かずつ
重複することもある。)

コミュニケーション活動をしましょう。
ワークシートに書いた予想が合っているかどうか、友だちに
どんどん聞いたり答えたりしてください。
では、使う英語の練習をしましょう。
まずは「聞き方」です。
Where are “シュークリーム” from?

Where are “シュークリーム” from?



Where are “アレルギー” from?



Where are “アレルギー” from?

次は「答え方」です。
From “ドイツ”.

From “ドイツ”.

From “イタリア”.

From “イタリア”.



15
分



- 6 コミュニケーション活動を行う。
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

ここが大切！
コミュニケーション活動には、少なくとも、10分程度は時間をとりたい。

児童の様子を観察し活動を促す。

答え合わせを行う。



- 7 説明を聞く。

時間があれば、それぞれの外来語の由来を説明するのもよい。
その場合、カードの裏面の説明をもとに児童に発表させてもよい。

8
分

- 8 本時を振り返る。
外来語との望ましい

- 6 コミュニケーション活動を始めさせ、支援する。

答え合わせは、コミュニケーション活動が終わってから行います。だから、ワークシートや赤鉛筆を持たなくて結構です。
では、Are you ready? Let's start!



(10分程度たったら) Time is up. Please go back to your seat.

答え合わせを進行し、どこの国の言葉が英語で聞く。

それでは、いっぺんに答え合わせをしましょう。
先生が英語で聞くので、答えを覚えている人は、
「From “どこどこ”」と答えてください。
Where are “シュークリーム” from?

From “フランス”. やったあ、合ってた！

丸を付けてください。

* 同様にすべての答え合わせを行う。

- 7 国ごとに、どんな言葉が入って来たのか説明する。

ドイツからは、ワークシートに書かれているとおり、医学に関する言葉がたくさん入ってきました。「ギプス、レントゲン、アレルギー」ですね。
イタリアからは、音楽に関する言葉がたくさん入ってきました。「テンポ、オペラ、クレッシェンド」がそうですね。
フランスからは、美術に関する言葉がたくさん入ってきました。「アトリエ、デッサン、シュークリーム」がそうです。みんなの好きな「シュークリーム」は、もとのフランス語では「シュー・アラ・クレーム」と言います。
「ギョーザ、ワンタン、ラーメン」は、中国から来た言葉だって分かったでしょう。ラーメンは中国では「拉麺(ラミエン)」、ギョーザは「餃子(チャオズ、ジャオザイ)」と言います。
「アルタイル、ベガ」は、彗星、織姫星として私たちにも馴染みの深い星です。他にもオリオン座にある「ベテルギウス、リゲル」などわれわれが親しんでいる星の名前の多くは、アラビア語がもととなっているのです。

- 8 まとめをする。

日本は、昔からたくさんの国と交流してきました。そしてドイ

接し方について理解し、
日本語を尊重する態度
を養う。

指導資料より、「もし
外来語が増えすぎ
たら？」の問題を出
して、児童の感想を
もとにまとめるのも
よい。

9 日本語であい
さつをする。

外来語の氾濫につ
いての話をした後な
ので、日本語で終わ
りのあいさつをする。

ツからは医学、フランスからは美術、イタリアからは音楽という
ように、たくさんの国の文化を取り入れてきました。

現在も、世界中のたくさんの国々と交流をし、互いに協力し
合いながら生活しています。

そして、これからも外国との交流を続けていく中で、外国の
文化とともに外来語は増えていくでしょう。

そこで心配なのは、外来語があまりに増えすぎることで、
日本人が正しい日本語を使えなくなってしまうことです。

みなさんは、日本人が昔から大切に使ってきた美しい日本語
を尊重しながら、必要に応じて、外来語をうまく使い分けられる
ようになって欲しいです。

9 きれいな日本語であいさつをする。